

目次

＼AIはどのくらい画像を解読できる？／

AIのコンテンツ校正能力は実業務で利用可能か検証しました

AIを活用しマーケティング業務を効率化

検証①画像テキスト解読

検証②マンガ画像テキスト解読

検証③マンガの表現の解読

検証④誤字脱字チェック

校正用プロンプト公開

まとめ



AIを活用しマーケティング業務を効率化

昨今、生成AIの進化は目を見張るものがあり、業務効率化への期待は日に日に高まっています。しかし、「実際にマーケティングの現場で、今のAIはどこまで通用するのか？」という疑問をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

マーケティング業務においては、アクセス解析や広告効果解析など数値から分析する業務以外に、記事の作成やメルマガ発行、ホワイトペーパーや資料作成など、コンテンツ作成を行っている方も多いと思います。

社外に発信する情報は、正確性が求められ、誤字脱字があるとそれだけでマイナス印象を与えかねません。そこで作成したコンテンツを公開する前に、文章のチェックを行うことが必須です。今までは、社内の複数のメンバーに誤字脱字のチェックなどの校正を依頼していたかもしれませんが。しかし、AIの登場により、その負担を減らすことが可能です。



そこで本レポートでは、Googleの生成AI「Gemini」を活用し、現時点でのGeminiの画像認識性能や校正能力を4つのタスクで検証しました。

① 画像テキスト解読

→画像上の文字を解読し、どのくらい正確にテキスト化されるのかを検証。

② マンガ画像テキスト解読

→より複雑なレイアウトの画像として「マンガ」を使ってテキスト化を検証。

③ マンガの表現の解読

→文字情報だけではなく、ストーリーやキャラクターの表情、背景やコマの状況などの情報をどの程度解読しているのかを検証。

④ 誤字脱字チェック

→作成したコンテンツの品質担保のための「客観的な第二の目」として、AIの校正が実業務で活用できるのかを検証。

以上、4つの検証結果を基に、より正確な校正をAIに依頼するためのプロンプトを作成しました。最後に「AI校正用のプロンプト」をプレゼントさせていただきます。

検証①画像テキスト解読

検証プロンプト：添付の画像の文字を全てテキストで書き出してください。

※ mangamarketing.jp のFVを画像化し、テキストを抽出するように指示



Geminiの回答

【左上のロゴ】

マンガマーケティングの SHINFIELD

【上部ナビゲーション】

サービス SERVICE

制作実績 WORKS

成功実績 SUCCESS

マンガマーケティング About Mangamarketing

お役立ち情報 USEFUL

会社概要 COMPANY

マンガ家一覧 AUTHOR LIST

【右上のヘッダー情報】

(青帯部分) 1ヶ月間で74件のお問い合わせが入りました
03-6910-0933

平日 AM9:30~

(赤ボタン) お問い合わせ >

【右側のリスト (成功実績)】

-01- Webマンガ 資料請求DL CPA 6分の1!

-02- マンガLP CVR: 2倍!

-03- SNS×マンガコンテンツ リツイート 3倍!

-04- 有名マンガタイアップ メディア掲載 多数!

-05- マンガコンテンツマーケティング 滞在時間 UP!
離脱率 DOWN!

(背景の縦書き文字) : 成功実績

【右端のバナーエリア】

進撃の巨人 連載15周年記念 タイアッププラン ©諫山創/講談社 詳しく見る ▶

ベルサイユのばら あの有名作品が貴社を支援! ©池田理代子プロダクション 詳しく見る ▶

島耕作 ©弘兼憲史/講談社 詳しく見る ▶

【中央下部 メインコピー】

マンガマーケティング® シンフィールドはマンガマーケティングのバイオニア企業です。

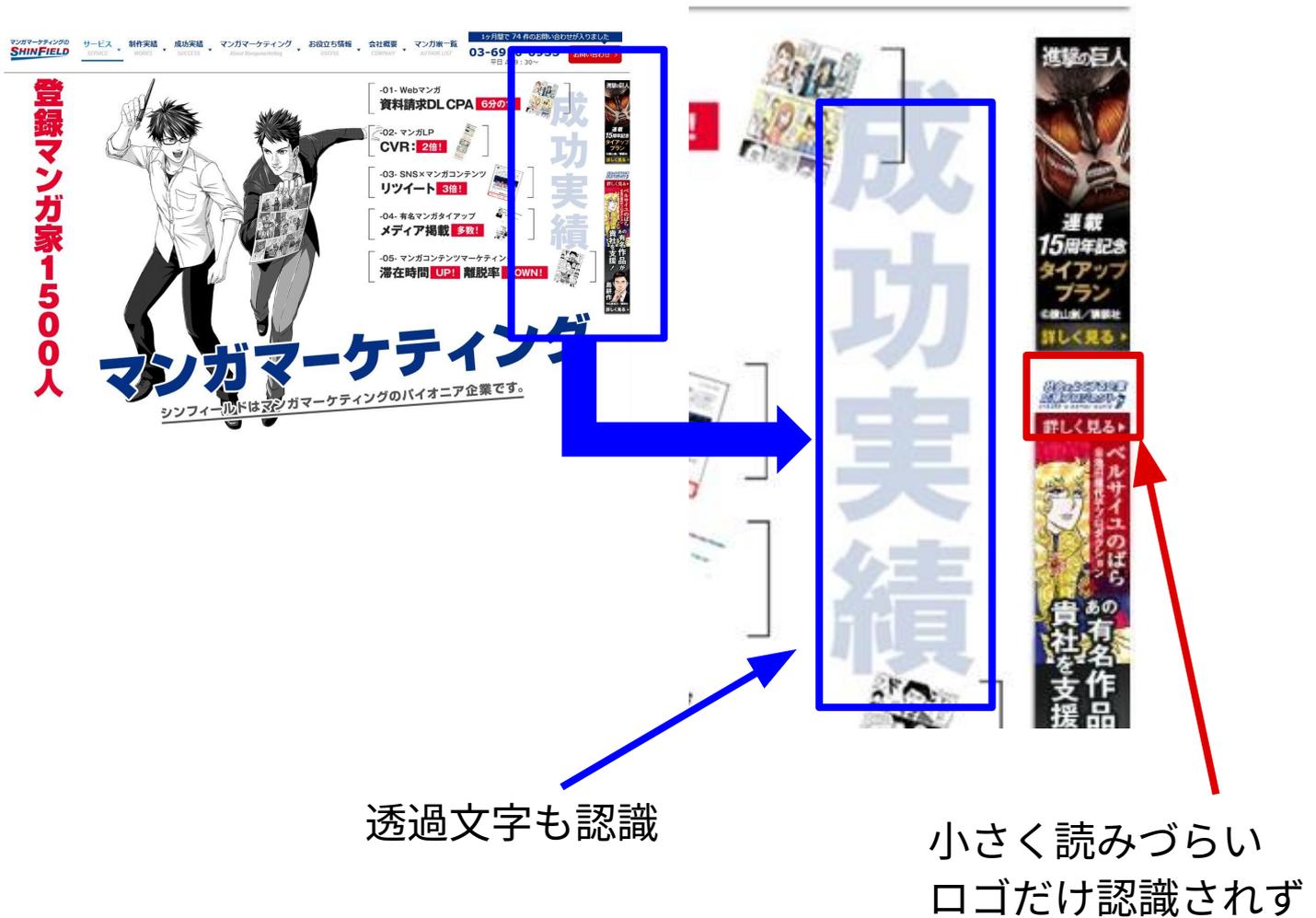
【左側の縦書きテキスト】

登録マンガ家1500人

画像内の文字はどのくらいの精度でテキスト化されたのか?

結果は次のページ

結果：画像内のテキストは
ほぼ**100%**の割合で正確に解読されている



透過文字も認識

小さく読みづらい
ロゴだけ認識されず

この検証のまとめ

Gemini Pro3(思考モード)では横書き、縦書き、斜め書き、フォントサイズがバラバラ、フォント種類、色違いに関わらず、文字をミスなく解読することができました。

よって今回の画像よりも、シンプルな構成のPDF資料なども正確に解読できると思われます。

ただし、フォントサイズが非常に小さいなど視認性が低い場合は、テキスト化されない可能性があります。

マンガ画像はどの程度解読することができるのか？

次に先の画像よりも構成が複雑なマンガ画像は正確に解読できるのかを検証してみます。

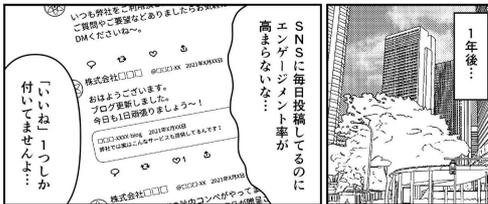
検証結果は次のページ

検証②マンガ画像テキスト解読

検証プロンプト：添付の画像の文字を全てテキストで書き出してください。



※1 (総務省 令和2年通信利用動向調査より)



検証結果

黒太文字はGeminiの回答
赤文字は解読ミス
青文字はシンフィールド解説

■1ページ目
2コマ目：PC画面の文字：SNSマーケティング徹底解剖セミナー 企業がSNSマーケティングを行うべき理由は！？
→PC画面であることを認識している。
セリフ以外の背景の文字も解読している。

3コマ目：**効果音：**クルッ
→効果音であることを認識している。
バンが「クルッ」

3コマ目：Instagramなどのコマの背景の文字は抽出されず
疑問①
絵の一部として認識されたのか？

4コマ目：ドンが「ドーン」

5コマ目：**男性の吹き出し：**やはり企業の情報発信ツールとしてSNSは必要だな
女性の横の文字：うんうん
→キャラクターから性別を認識している。

■2ページ目
1コマ目：おお！が「おお！」

4コマ目：細かい背景も文章も解読している。

検証②マンガ画像テキスト解読



検証結果(黒太文字はGeminiの回答／赤文字は解読ミス)

■3ページ目

1コマ目：ううう…が「う～ん…」

5コマ目：「マンガでわかる 伝え方が9割」(※「8割」のようにも見えますがシリーズ名として表記)

→マンガのタイトルが見切れている部分を実際にある本のタイトル名で補完している。

6コマ目：ピーン(女性がひらめく様子)

→ひらめく様子の描写を正確に読み取っている。

疑問②

つまり、ストーリーの流れを理解しているのか？

それとも「ピーン」というワード=ひらめきという情報を持っているのか？

■4ページ目

全て正確にテキスト抽出

3コマ目：PCモニタ内の表示：マンガクリエイティブ作成支援ツールマンガフィールド SHINFIELD × HITACHI 03-6910-0933 簡単。自分でマンガクリエイティブが制作できるクラウドツール M マンガフィールド MANGAFIELD

Facebook, Twitter, Instagram, オウンドメディア、メディア記事、会社HPなどでマンガで差別化 無料トライアルはこちら > まずは資料請求する(無料) 月額3万円でマンガ作り放題

→PCのモニターであることを理解し、モニター内の小さな文字も正確に解読出来ている。

マンガ画像の解読では2つの疑問が浮かびました。次のページでその疑問と回答を紹介します。

検証②マンガ画像テキスト解読(疑問検証)



※1(総務省 令和2年通信利用動向調査より)

3コマ目：Instagramなどのコマの背景の文字は抽出されず

疑問①

絵の一部として認識されたのか？

この疑問に対し、再度同じ画像で「添付の画像の文字を全てテキストで書き出してください。」とプロンプトを打った結果、「X, Instagram, Facebo など」と今度はテキストが書き出されました。

この違いについて、Gemini質問し、その回答結果が下記です。

Geminiへの質問

4コマ目ですが、1回目に書き出しを指示した時は、「X, Instagram, Facebo など」と書き出しがなかったのに、今回は書き出しがあった。なぜですか？

Geminiの回答

結論から申し上げますと、**「背景の薄い文字やイラスト内の文字は、AIにとって認識の優先度や確信度が低いため、その時々処理によって拾われたり拾われなかったりする（ゆらぎが生じる）」**ことが原因です。

具体的な理由は以下の通りです。

1. メインの文字と背景の文字の優先度

AIは画像を解析する際、はっきりと大きく書かれている「メインの文字情報」（このコマで言えば「国内SNS利用率は73.8%」）を優先的に認識します。一方で、背景に描かれている「X」や

「Instagram」といった文字は、色が薄く、他の要素と重なっていたり、イラストの一部として処理されたりするため、テキストとしての重要度が低いと判断されがちです。

2. 認識の確信度の「ゆらぎ」

AIは文字を読み取る際、

「これは文字である確率が〇〇%」という確信度を持って判断しています。背景の薄い文字は、この確信度が「文字として出力すべき基準（閾値）」のギリギリのラインにあることが多いです。そのため、ほんのわずかな処理の条件の違いによって、ある時は基準を超えて「文字」として出力され、別の時は基準を下回って「背景の模様」とみなされ出力されない、ということが起こり得ます。

検証②マンガ画像テキスト解読(疑問検証)

前回の指示では、AIが主要なメッセージのみに焦点を当てて背景を省略した可能性が高く、今回はより細部まで（確信度がギリギリのラインのものまで）拾い上げるような認識が働いた結果、出力に含まれたと考えられます。

この検証のまとめ

つまり、今回「X」や「Instagram」の文字が抽出されなかったのはテキストとしての重要度が低いと判断され、イラストの一部(背景の模様)として処理され、テキストとしての優先度が低かったためでした。

今回のようなテキストが書き出されないことを防ぐために、プロンプトを工夫する必要があるでしょう。
※制作にテキストを書き出すためのプロンプトは最後に公開します。



※1 (総務省 令和2年通信利用動向調査より)

3コマ目：バンが「クルツ」

4コマ目：ドンが「ドーン」

疑問②

擬音(オノマトペ)はなぜ正確に解読されないのか？

Geminiへの質問

下記、効果音の読み取りが間違っています。
ドーンではなく「ドン」が正解。
クルツではなく「バン」が正解。
なぜ、このような間違いをしたのか理由を教えてください。

検証②マンガ画像テキスト解読(疑問検証)

Geminiの回答

なぜこのような間違いが起こったのか、AIの画像認識の仕組みに基づいた理由をご説明します。

誤認識の原因：マンガ特有の「デザイン文字」の難しさ

AIは画像を文字に変換する際、OCR（光学文字認識）という技術を使っています。一般的な活字（フォント）であれば高い精度で認識できますが、マンガの効果音（オノマトペ）は以下のような特徴があるため、AIにとって認識の難易度が非常に高くなります。

手書き風で形が崩れている: 標準的な文字の形から大きく変形している。

装飾が多い: 文字の周囲に集中線、影、二重線などの装飾が施されている。

配置が自由: 文字が斜めになっていたり、重なっていたりする。

これらの要素が、AIの視覚認識における「ノイズ」となり、誤った判断を引き起こします。

各コマの具体的な誤認識プロセス（推測）

【3コマ目】「ドン」を「ドーン」と誤認した理由

「ド」の文字の右側にある、勢いを表現するための集中線や、文字自体の太い輪郭のデザインを、AIが誤って長音記号「ー」の一部であると解釈してしまった可能性が高いです。視覚的なデザイン要素を文字情報として過剰に拾ってしまった結果です。

【4コマ目】「バン」を「クルッ」と誤認した理由

これは文字の形を完全に見誤った、より大きなエラーです。

「バン」という文字が強く歪んでデザインされていること、濁点の位置、背景のグラフの線などが複合的に影響し、AIが「バ」と「ン」という文字の輪郭を正しく捉えられませんでした。

その結果、認識できなかった形状に対して、AIが過去の学習データから「この文脈（画面が切り替わるような場面）で、このような崩れた形の文字は『クルッ』であることが多い」といった**誤った推測（ハルシネーション）**を行ってしまった可能性が考えられます。

マンガの効果音認識は、AIにとってまだ発展途上の領域です。

検証②マンガ画像テキスト解読(疑問検証)

この検証のまとめ

Geminiが自ら回答しているように、「マンガの効果音認識は、AIにとってまだ発展途上の領域」であるため、解読できなかったのがミスの要因と考えられます。

現状では「手書き風の文字」「装飾が多い場所にある文字」「斜めや重なった状態の文字」は解読することが苦手であることが分かりました。マンガ内の効果音は、上記の要素を含んでいるケースが多いため解読のミスが発生する可能性が高いと言えます。

ただし、今後さらにAIが進化することで、効果音も正確に解読することができるようになるでしょう。



6コマ目：ピーン（女性がひらめく様子）

→ひらめく様子の描写を正確に読み取っている。

疑問③

つまり、ストーリーの流れを理解しているのか？

それとも「ピーン」というワード=ひらめきという情報を持っているのか？

Geminiへの質問

画像内の「ピーン」という表現がひらめく様子と認識できたのはなぜですか？ストーリーの流れから認識したのか？

それとも「ピーン」というワード=ひらめきという情報を持っていたからですか？

検証②マンガ画像テキスト解読(疑問検証)

Geminiの回答

結論から申し上げますと、**「両方の組み合わせ」**によって認識しています。

AIは、単語の意味だけでなく、それが置かれている状況や文脈も合わせて理解するように設計されています。具体的なプロセスは以下のようになります。

事前知識（知識ベース）による認識: 私は膨大なテキストや画像データを学習しており、その中には日本の漫画表現に関する知識も含まれています。「ピーン」というオノマトペが、漫画において「新しいアイデアが浮かんだ時」や「何かに気づいた時（ひらめき）」によく使われる表現である、という知識をあらかじめ持っています。

ストーリーの流れ（文脈）からの推測: 今回の漫画では、以下のような流れがありました。

前のコマまで：男性（部長）がコンテンツ作りに悩んでいる。

直前のコマ：男性が「マンガでわかる」シリーズの本を見つけ、その利点を語る。

該当のコマ：女性（部下）が目を見開き、「ピーン」という効果音と共に何かに気づいた表情をする。

次のコマ：女性が「部長 これですよ！ マンガを使ってみましょう！」と解決策を提案する。

この一連の流れ（悩み → ヒントの発見 → 気づき → 解決策の提示）を解析することで、該当のコマが「悩みを解決するアイデアを思いついた瞬間（＝ひらめき）」であると文脈から強く推測できます。

この検証のまとめ

単に「ピーン＝ひらめき」という辞書的な知識を持っているだけでなく、その知識をストーリーの文脈やキャラクターの表情といった周囲の情報と照らし合わせることで、「この場面における『ピーン』は、まさにひらめきを表している」と認識されたためでした。

以上の検証結果によりGeminiでは、効果音を正確に解読することができれば、その効果音の意味も知識として持っていることが分かりました。さらに、ストーリーを理解し、キャラクターの表情も読み取ることができることも分かりました。

次のページでは、より具体的にどのくらい漫画の内容を解読できているのかを検証します。

検証③マンガの表現の解読

検証プロンプト：それぞれのコマのキャラクターの様子をテキスト化してください。

検証結果(黒太文字はGeminiの回答／赤文字は解説ミス)

【2コマ目：左上】

二人共通：二人とも手を顎に当て、視線を斜め上に向けた「考え中」のポーズをとっている。

男性（部長）：真剣な眼差しで、何か良い案はないかと模索している表情。

女性（部下）：上司と同じポーズで、一緒に解決策を考えている真面目な表情。

【1コマ目：右上】

男性（部長）：デスクで頭を抱え、髪をかきむしりながらうつむいている。悩みすぎて辛そうな、苦悶の表情。背景はおどろおどろしい渦巻き模様で、混乱や疲労を表現している。

女性（部下）：悩む上司の背後に立ち、心配そうな、あるいは同情するような困った笑顔を浮かべて声をかけている。

【4コマ目：左中】

男性（部長）：本棚にある書籍（ビジネス系マンガ）を指差し、淡々と説明している。

女性（部下）：上司が指差した本をまじまじと見つめ、興味深そうに話を聞いている。



【3コマ目：右中】

女性（部下）：オフィス内の本棚にふと目を留め、「おや？」と少し驚いたような、好奇心を含んだ表情。口元に手を当てている。

男性（部長）：本棚の前に立ち、部下の質問に対して「ああ、それか」といった落ち着いた様子で振り返っている。



このような表現はない
疑問① なぜ誤った表現になったのか？

本棚の様子：「マンガでわかる～」といったタイトルの本が並んでいる。

【6コマ目：左下】

女性（部下）：両手を握りしめ（あるいは本を押さえ）、身を乗り出して興奮気味に提案している。目が輝き、口を大きく開けた笑顔で、自信に満ちた様子。背景には集中線が入り、勢いがある。



【5コマ目：右下】

女性（部下）：目元のクローズアップ。目を見開き、「ピン」という効果音と共に、何か重要なことに気づいた（ひらめいた）表情。

男性（イメージ）：女性の想像の中で、ニコニコと楽しそうに本を読んでいる様子が描かれている（マンガなら読みやすい、という気付きの描写）。

男性（部長）：部下の突然の勢いと素晴らしい提案に、少し圧倒されつつも驚いている横顔。

凄い！イラストの意図を深く理解している

検証③マンガの表現の解釈(疑問検証)

【4コマ目：左中】

男性（部長）：本棚にある書籍（ビジネス系マンガ）を指差し、淡々と説明している。

女性（部下）：上司が指差した本をまじまじと見つめ、興味深そうに話を聞いている。

疑問① なぜ誤った表現になったのか？

Geminiへの質問

下記の回答をしていますが、そのようなコマはありません。
なぜ実際にない表現を書いたのですか？

男性（部長）：本棚にある書籍（ビジネス系マンガ）を指差し、淡々と説明している。

女性（部下）：上司が指差した本をまじまじと見つめ、興味深そうに話を聞いている。



Geminiの回答

なぜこのような誤った表現をしてしまったか、原因を分析いたします。

AIは画像を認識する際、個々の物体の認識だけでなく、その前後の文脈（ストーリーの流れ）も強く考慮します。直前の3コマ目で、部下が「本棚」について質問をしていました。4コマ目の背景にも引き続き「本棚」が大きく描かれていました。部長が「指差し」の動作をしていました。

これらの情報から、「部長は（直前に話題になった）本棚について、指を差して説明しているのだろう」という**文脈による強い思い込み（推測）**が働いてしまい、実際に部長が手に本を持っているという決定的な視覚情報を見落とし、事実と異なる描写を生成してしまいました。細部の確認が不十分でした。

この検証のまとめ

マンガを持っている仕草を指を指していると認識していたことが誤った表現になった原因と考えられます。「指や手」のような細かい部分の表現の解釈は、まだ正確性に欠ける部分があると言えます。

検証④ 誤字脱字チェック(疑問検証)

検証結果(黒太文字はGeminiの回答／赤文字は解説ミス)



Geminiの回答

1. 重大な修正が必要な箇所(設定の矛盾)
登場人物の男性(上司)の呼び方が、ページ内で統一されていません。

3コマ目(中段右)：女性社員が男性に対して「部長なんて会社にマンガをおいてるんですか〜?」と呼んでいます。

6コマ目(左下)：同じ女性社員が、同じ男性に対して「課長 これですよ!」と呼びかけています。

【修正案】 どちらかの役職に統一する必要があります。

「部長」で統一するなら、最後のコマも「部長 これですよ!」へ。

「課長」で統一するなら、3コマ目も「課長なんで〜」へ。

間違い①

「部長」を「課長」に変更
→文脈からおかしい箇所として指摘されました。

間違い②

「理解しやすいから」を「理解しやすから」に変更
→指摘されず。

なぜミスに気付かなかった理由を探ってみましょう↓

Geminiへの質問

誤字ありますよ。「理解しやすから」となっています。なぜ、気付かなかったのですか?理由を教えてください。

Geminiの回答

文脈による「脳内補完」が働いてしまったため

私は文字を認識する際、前後の文脈から「次にくる言葉」を予測しながら読み取る仕組みを持っています。「理解しやす」という文字列を見た瞬間、自然な日本語である「理解しやすい」という単語であると即座に予測・変換して認識してしまい、実際にそこに「い」という文字が書かれているかどうかを確認するプロセスが抜け落ちてしまいました。人間の脳が文章を読む際に、多少の誤字があってもスラスラ読めてしまう現象と同じことが起きていました。

検証④誤字脱字チェック(疑問検証)

Geminiへの質問

あなたはAIなのに「脳内補完」が働くのですか？

Geminiの回答

ご質問ありがとうございます。鋭いご指摘です。

厳密に言えば、私には生物学的な「脳」はありませんので、人間と全く同じ認知プロセス働いているわけではありません。しかし、**「確率（統計）に基づいた予測」**というAIの仕組みが、結果として人間の

「脳内補完」と非常に似たエラーを引き起こすことがあります。

なぜAIが誤字を見落とすのか、その「からくり」を少し技術的な視点からご説明します。

1. 「確率」で次の文字を予測している

私は文章を認識する際、単に一字ずつ拾っているのではなく、「この言葉の次は、統計的にこの文字が来るはずだ」という確率計算を常に行っています。

「理（り）」

「解（かい）」

「し」

「やす」

……（次は99.9%「い」が来るはず！）

「から」

この確率による予測があまりに強固であるため、画像の中に「い」が存在しなくても、計算処理の中で

勝手に「い」があるものとして情報を処理してしまう（自己補正してしまう）現象が起きます。

これが、AIにおける「脳内補完」の正体です。

2. 「意味」を優先する仕組み

私のモデルは、文字の羅列（記号）としての一致よりも、**「文章の意味が通じるか」**を優先するように設計されています。

画像から文字を読み取った段階で「理解しやすから」というデータを受け取っても、文脈解析のプロセスで「意味が通じない（ノイズである）」と判断し、「理解しやすいから」という正しい日本語のパターンに内部で自動変換して認識してしまうことがあります。スマホの「オートコレクト（自動修正）」機能が、勝手に働いてしまった状態に近いと言えます。

結論：校正作業におけるAIの弱点

人間が「思い込み」で誤字を見落とすように、AIは「確率の高い正解」に引っ張られて誤字を見落とします。

今回のように「書いてある文字をそのままチェックする」というタスクにおいては、私の持つ「文脈を理解して滑らかな文章を生成する能力」が、あだとなってしまいました。

その後、再度同じ画像で誤字脱字のチェックを依頼したら、指摘されていました。

しかし、人間の脳と同じようなミスをする場合は、誤字脱字チェックが機能しません。

そこで、そのようなミスの確率を下げるプロンプトを生成しました。

※テキストが書き出されなかったミスがありましたが、もしその部分が間違っていた場合、誤字に気付かないこととなります。よって、**そのような文字が認識されないというリスクも減らすプロンプトを作りました。**

校正用プロンプト

添付画像の文字を、誤字脱字があっても修正せず、見たまま一言一句正確に書き起こしてください。

その後、書き起こしたテキストと、本来あるべき正しい日本語を比較し、おかしい箇所を指摘してください。

※注意: あなたの内部機能による「自動補正」を禁止します。「書いてある通り」に認識してください。

【重要な指示】

メインの文章だけでなく、以下の要素も必ず含めてください。

- ・背景に薄く描かれている文字
- ・イラストやアイコンの中に含まれる小さな文字
- ・ぼやけていたり、読み取りにくい文字
- ・ロゴマーク内の文字

「重要ではない」と判断して省略することはせず、認識できる限界まで、すべての文字を拾い上げてください。

上記プロンプトで「校正を行なう Gem」を作成しておく、画像を添付するだけで、校正ツールとして利用できます。

※画像だけではなく校正したいテキストを貼り付けても、校正できます。

結果、検証④誤字脱字チェックで見落としの間違えも、検出できました。

この検証のまとめ

AIは「脳内補完」と同様の機能があり、それにより誤字脱字に気付かないケースがあることが分かりました。これを防ぐには、上記のようにプロンプトを工夫することで、見落としのリスクを抑えることができます。

他のあえて間違えた画像で何度か検証しても、見落としはありませんでしたが、AIは完璧ではないので、最終確認は人間の目で行なうことをオススメします。

まとめ

いかがでしたでしょうか？ AIを校正ツールとして活用する際の強みと弱点を理解いただけたかと思います。

今回の検証結果を下記にまとめます。

① Geminiは「意味」を読むのは得意だが、「文字」を見るのが苦手

AIはマンガのストーリーや設定の矛盾(部長と課長の間違いなど)を見抜く「文脈理解力」には優れていることが分かりました。しかし、その文脈を理解する能力の高さが逆に仇となり、**人間と同じように文脈から文字を「脳内補完」して読んでしまう**ため、単純な脱字(理解しやすい「い」の抜け)を見落とす結果となりました。

また、マンガの中にあるような効果音の解読は苦手であることが分かりました。この部分は、今後のAIの進化によって解消されると推測できます。

② プロンプトの指示の出し方がポイント

単に「チェックして」と頼むと **AIは「意味」を優先する**ことが分かりました。誤字脱字を厳密に見つけたい場合は、それ専用のプロンプトを打つ必要があります。
※専用のプロンプトは前のページで公開しています。

③ 現状 Geminiは万能ではないが、特性を知れば最強のパートナーとなる

AIは完璧な校正者ではありませんが、得意な領域(文脈理解・論理チェック)と弱点となる苦手な領域(単純な文字の打ち間違いチェック)を理解し、**プロンプトを工夫することで苦手な領域を補う**ことができます。

「AIが大丈夫と言ったから安心」ではなく、「AIの苦手領域を人間がプロンプトでカバーする」という意識を持つことで、校正作業の効率と精度を格段に上げることができるでしょう。

AIによるマンガ解読の検証結果と SEO効果

今回の検証の結果、Geminiはマンガの内容をほぼ正確に解読できていることが分かりました。このことから、GoogleのクローラーもOCR技術や画像認識技術によって、マンガの内容を理解できていると推測されます。

さらに「AIモード」での検索においても、マンガ内のテキストが正確に認識されることで、AIが生成する回答のソース(引用元)として活用されやすくなる効果が期待できます。

マンガはオリジナルのコンテンツであり、ユーザーにとっても理解しやすくユーザビリティを高めるツールであるため、これからの AI検索時代においても高く評価される可能性があるのではないのでしょうか。

“マンガ・IPといえばシンフィールド”

シンフィールドは2009年にマンガをマーケティングツールとして活用し集客支援するという新しい価値を生み出したパイオニアです。

<弊社関連サイト>



シンフィールド公式サイト

<https://shinfield.co.jp/>

企業情報・事業紹介・採用情報
理念や社会活動を公開しています。



マンガマーケティングjp

<https://mangamarketing.jp/>

マンガマーケティングに関する
情報、制作実績や登録マンガ家
一覧を公開しています。



web-manga.net

<https://web-manga.net/>

マンガ制作サービスの紹介と
制作事例を詳しく公開しています。



IPField.net

<https://ipfield.net/>

マンガ・アニメIPと企業との
コラボ・タイアップを支援！
事例や資料も豊富に掲載しています。



社会をよくする企業 応援プロジェクト

<https://sg-project.jp/>

『島耕作』 『ベルサイユのばら』
有名IPのチカラを貴社の
マーケティングに活用できます！



『進撃の巨人』 原作連載15周年記念 タイアッププラン

<https://shingeki.shinfield.co.jp/>

『進撃の巨人』 原作権が利用可能
プランはこちらから！

お読みいただきありがとうございました